

令和5年度中学校教育研究会（秋の公開）道徳科・美術科 授業の様子

単元名	共に生きる社会 ～これからのカタチ～		
授業学級	1年E組（41名）	授業者	村田 茜・常田 浩二
研究アプローチ	II：プル・アプローチ		
教科の学び	相互理解、寛容 デザイン 様々な立場の人と共に生きる 誰にとっても使いやすいデザイン		

【本時の様子】

生徒たちは、「共に生きる社会を実現するために何をすればよいか」について、これまでの学習や経験とつなげて考えました。

「人それぞれ普通といっても違うのだから、それぞれの当たり前を大切にする」「どちらかだけが頑張っても続かない。お互いに歩み寄る」等、これまでの学習を思い返ししながら自分の考えを伝え合いました。また、「様々な人がいる中で誰でも使うことができるようにデザインすることが必要なのは、ペットボトルに限ったことではないと思う」と考えるなど、美術科での学びを自分なりにつなげて語る生徒の姿がありました。

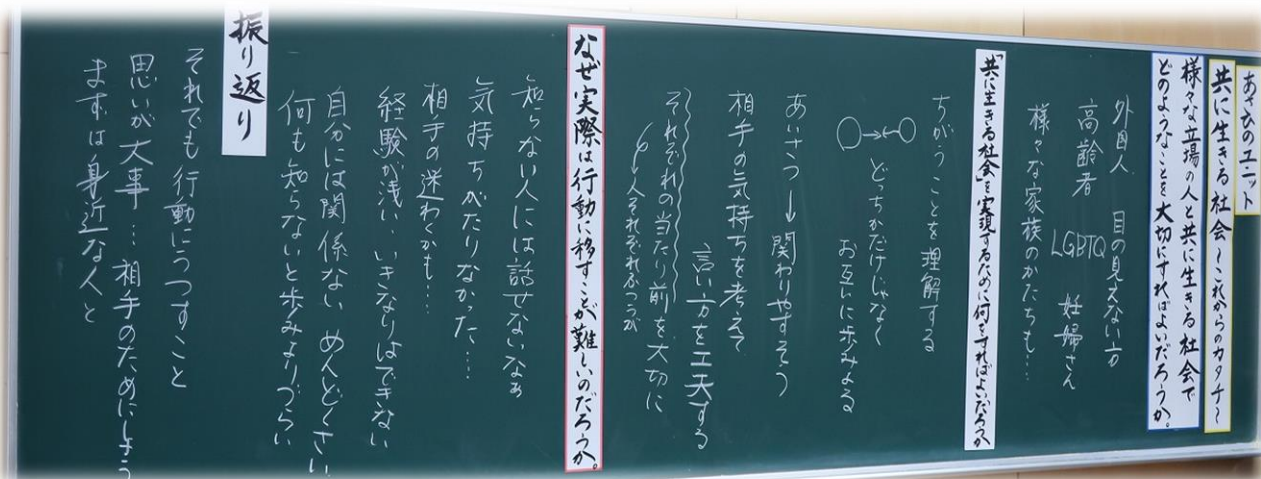
一方で、実際に行動する難しさについて考える場面もありました。「正直、自分には関係ないという思いがある」「駅で声を掛けられたのだけれど、無視をしてしまう形になった。自分の気持ちが足りなかったのかも…」と、自分の経験を振り返る生徒の姿がありました。共に生きる社会の実現に向けて、大切なことと難しさの両方に向き合い、最後は「どうするとよいのか」について考えていきました。

今後は、グループごとペットボトルのデザインを完成させ、単元の学び全体を通して、「共に生きる社会の実現」について自分は何を考えたのか振り返ります。生徒は、答えのない問いに対して、どのような考えをもつのでしょうか。



グループ追究の様子

全体追究の様子



本時の板書

【単元終末のK生の姿】

M生は、第1時に「社会には様々な人がいることを改めて知った」と振り返り、今まで身近におらず意識してこなかったものの、障害者や高齢者、外国の方など様々な立場の方が悩みを抱えながら、今も生活していることに気付きました。一方で、「お互いのことを尊重し合うのは難しい」「どうやって関わったらよいか分からない」と、共に生きることの難しさも感じていました。

第9時（美術最終時）、M生は美術科での学習を振り返りました。デザインの過程でグループ内の意見がぶつかったことについても触れながら、様々な立場の方にとって使いやすいデザインや、お互いのことを尊重することに関わって以下のように記述しました。

どんな人が、どんな悩みを抱えているのかということ意識し、目が見えない人だけでなく、外国の方や子供など様々な立場の人のことを考えて、マークや文字、形などを工夫した。どんなことも、自分がもしその立場だったら、と考えると不便なところが分かるので、自分がその立場になった時のことを考えることが大切だと思った。意見がぶつかったこともあったけれど、相手が話しているときは口を挟まずに最後まで聞いて、お互いの主張を正しく理解することが大切だと思ったので、意識しながら班の人たちと意見を出し合い、手全体をフィットさせられるようなデザインにすることができた。

第10時（最終時）の終末、M生は、道徳や美術科でのこれまで授業の終末に毎回書きためてきた振り返りの一覧を基に、テーマ「様々な立場の人と共に生きる社会でどのようなことを大切にすればよいだろうか」について、最終的な自分の考えを記述しました。

私は、自分の考えや行動などを必ず良いものと決めつけ、相手に押しつけるのではなく、相手の意見などを尊重し合い、助けあうことが大切だと思った。何ごとも理由を聞くことが大切だと思う。できる・できないの問題ではなく、相手にも他の主張や意見があり、必ず自分と同じ人がいるわけではないので、相手の立場について、もしも自分がその立場になったら…と考えることが大切なのではないかと思った。

私は今まで、何か特別不自由なことがあったり、大きな悩みを抱えたりした人が近くにいなかったため、これらのことを深く考えたことはなかったが、実際に調べたり、会ったりしてみると、新たな学びがあった。様々な悩みがあることを意識しながら何かを作ったり、デザインしたりするのは難しかったが、どのような人でもできるだけ使いやすいように考えたり、少しでも行動したりすることはできるので、小さいことでもやってみることが大切なのではないかと思った。これからは、自分ができることをやっていきたい。（オレンジ…道徳、青…美術、二重線…共通）

M生のように、道徳科と美術科の学習の両方を通して、一人一人異なる立場や考えがあることを改めて実感し、共に生きる社会に向けて自分がどう在るべきか考える生徒が多く見られました。このような学びをした生徒が、今後道徳や美術を含むすべての学習で、複数の教科での学びをつなげて考えていくことをどのように生かしていくかが楽しみです！